

平成25年度 第2回 藤島地域審議会

日 時 平成25年7月4日(木)

午前10時～

会 場 藤島庁舎3階 大会議室

－ 次 第 －

1 開 会

2 会長挨拶

3 協 議

協議テーマとして設定した事項について

テーマ 藤島の魅力を活かした交流人口の拡大方策について

(1) 議論の視点 ①農業資源を活かした交流人口の拡大について【資料1、2】

(2) 議論の視点 ③庄内農業高校との連携による地域活性化策について【資料3】

(3) その他

4 そ の 他

5 閉 会

藤島地域の農業資源（例）

1. 農業関連施設・機関

	施設名
山形県	農業総合研究センター水田農業試験場
	庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課
	庄内農業高等学校
鶴岡市関連	藤島エコタウンセンター（四季の里 楽々）
	藤島エコ有機センター（堆肥センター）
	ふれあい食センター（サンサン）
	藤島総合交流促進施設（ぽっぽの湯）
	藤島ふれあいセンター（エイブル21）
	東田川文化記念館（わら細工、農具の展示）
	藤島農村環境改善センター
公的施設	笹川土地改良区
	因幡堰土地改良区
	・大堰・幹線水路親水遊歩道 ・貯水池（小中島、豊栄）
JA関連	全農 米倉庫
	庄内たがわ農協本所
	庄内たがわ農協藤島基幹支所
	庄内たがわ農協農産加工所
	カントリーエレベーター、ライスセンター等
民間施設	庄内協同ファーム加工施設
	月山パイロットファーム加工施設
	東北イートップ食品残渣堆肥化施設
	井上農場消費者交流施設
	うめちゃんキムチ加工施設
	生産施設（温室、ビニールハウス等）

（鶴岡市藤島庁舎 産業課まとめ）

2. 農産物

- 米 : はえぬき、どまんなか、つや姫
有機栽培米、特別栽培米
- 野菜等 : 自家用野菜は種類も豊富
- 機能性農産物、在来作物等 : すいおう、藤島だいこん
- 加工品 : 月山パイロットファーム…漬物
庄内共同ファーム……………もち
すいおうパウダーで菓子、麺
- その他 : マコモダケ

3. 都市等との交流

- 農業体験の受け入れ
横浜市内の保育園の田植え、稲刈り体験の受け入れ
- 修学旅行の受け入れ
仙台市内の中学校を平成22年度まで受け入れ
- 農業研修の受け入れ
明治大学農学部の研修の受け入れ
- その他
東洋大学社会学部の実習の受け入れ

4. 特色ある取り組み

- ・市が認証する有機農産物（全国で1例）
- ・保育園、幼稚園、福祉施設にも地産地消給食を提供する「ふれあい食センターサンサン」

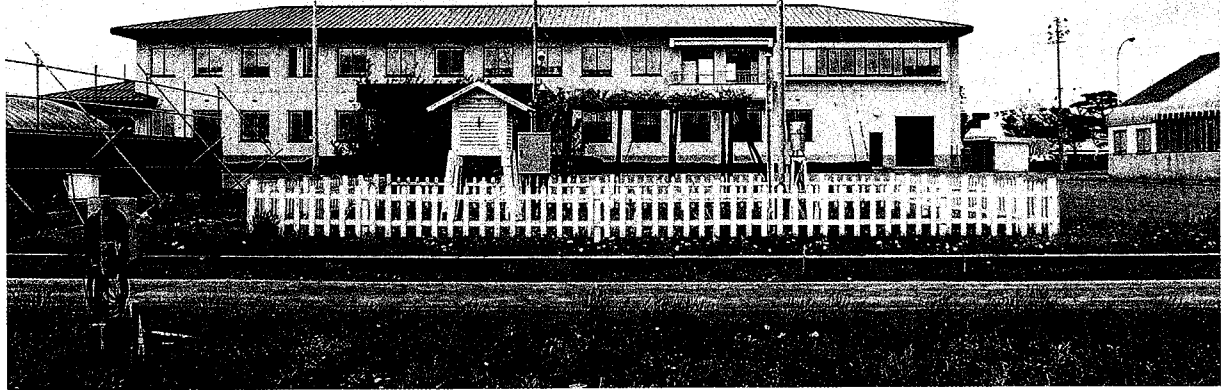
5. 特色ある文化

- ・わら文化の伝承

山形県農業総合研究センター
水田農業試験場

あんない

〒999-7601
山形県鶴岡市藤島字山ノ前25
TEL. 0235-64-2100
FAX. 0235-64-2382
交通/JR東日本羽越線藤島駅下車徒歩15分
" 鶴岡駅下車バス20分

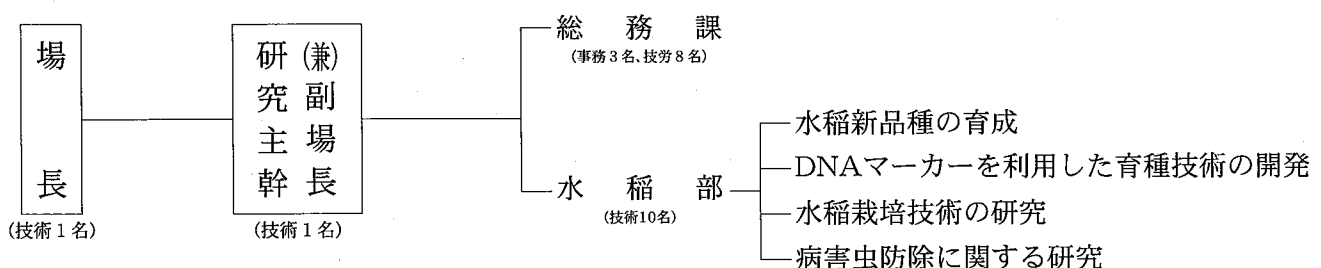


平成25年度版

沿革

- 大正9年 現在地に山形県立農事試験場庄内分場として創立。
- 昭和2年 いもち病防除指定試験開始（～昭20）。
- 昭和16年 修練生養成事業開始（～昭46）。第1次育種事業開始。
- 昭和22年 ごまはがれ病防除指定試験開始（～昭36）。
- 昭和23年 田畑輪換指定試験開始（～昭36）。
- 昭和25年 山形県立農業試験場庄内分場と改称。
- 昭和27年 水稻研究係、経営研究係を設置し2係制となる。
- 昭和31年 経営研究係が水稻研究係に統合し、病虫害研究係を設置。
- 昭和37年 農機具研究係設置（昭40、農業機械研究係と改称）。
- 昭和38年 庶務係設置。総合実験農場に関する研究（～昭42）。
- 昭和39年 育種研究係を設置し5係制となる。
- 昭和47年 大規模営農実験農場に関する研究（～昭51）。
- 昭和49年 庄内分場を庄内支場に改称。
- 昭和52年 あさあけ（庄内20号）奨励品種に編入（初育成品種）。
- 昭和57年 総務課、作物部、育種部、環境部を設置し1課3部制となる。
尾花沢試験地の育種業務を引継ぎ、育成系統名を「山形」番号とする。
- 昭和60年 現本館及び付属棟完成。バイテク（薬培養等）による品種開発開始。
- 平成元年 育種部をバイオ育種部と改称。銘柄水稻品種開発事業開始（～平5）。
- 平成12年 バイオ育種部を水稻品種開発部と改称。
- 平成13年 作物部と環境部を統合し、水田技術研究部とし、1課2部制となる。
- 平成17年 研究機関組織再編により山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場庄内支場となる。
水稻品種開発部と水田技術研究部を統合し、水稻研究科とし、1課1科制となる。
- 平成21年 研究機関組織再編により山形県農業総合研究センター水田農業試験場となる。
- 平成23年 水稻研究科を水稻部と改称。
- 平成24年 世代促進温室を改修。換地による圃場造成。

機構・業務・人員



主な試験研究成果

- 1. 水稲奨励品種「はえぬき」(山形45号)の育成(平成3年)**

「はえぬき」(庄内29号/秋田31号)は、中生の晩の高品質、極良食味品種で、県内一の作付面積を誇る看板品種です。
- 2. 水稲優良品種「出羽の里」(山形酒86号)の育成(平成16年)**

「出羽の里」(吟吹雪/出羽燦々)は、中生の晩(中山間部に適応)で、醸造適性が優れる酒米品種です。心白の発現が良好で心白が大きく、純米酒に適しています。
- 3. 水稲優良品種「こゆきもち」(山形糯87号)の育成(平成18年)**

「こゆきもち」(わたぼうし/山形糯55号)は、中生(中山間地域から平坦部に適応)で、耐冷性が強く、玄米千粒重が重く、多収で、良質、良食味の品種です。餅の白さが際立ち、味、のびが優り大福餅などに適しています。
- 4. 水稲奨励品種「つや姫」(山形97号)の育成(平成21年)**

「つや姫」(山形70号/東北164号)は、晩生(平坦部に適応)で、短稈で耐倒伏性、多収、玄米外観品質が優れ、とくに炊飯米の光沢、白さが優れ、極良食味の品種です。“米どころ山形”本県産米のブランド確立の起爆剤として大いに期待されています。
- 5. 水稲認定品種「山形95号」の育成(平成22年)**

「山形95号」(山形59号/奥羽366号)は中生の晩(平坦部に適応)で、「はえぬき」並の食味を有し、いもち病に強い品種です。有機栽培・特別栽培など農薬使用が制限される栽培に適します。
- 6. 水稲認定品種「出羽きらり」の育成(平成22年)**

「出羽きらり」(山形75号/奥羽366号)は中生の晩(平坦部~中山間部に適応)で、大粒(千粒重約25g)で多収かつ、いもち病に強い品種です。醸造適性が高く、「掛米」として優れます。
- 7. 庄内地域の異常高温・日照不足に対する水稲対応技術アクションプログラムの作成(平成14~15年)**

近年、気象変動が大きい庄内地域において水稲栽培における異常高温、日照不足等に対応するための判断指標と対応技術を体系化したアクションプログラムを作成しました。
- 8. 長期持続型箱施用剤を基幹とした水稲害虫の複数年防除体系の確立(平成14年)**

長期持続型箱施用剤を広域に1~2年使用すると、イネドロオイムシ、ニカメイガ、コバネイナゴの発生密度が低下し、次年度以降は、これらを対象とした防除を2~3年中断でき、長期持続型箱施用剤を基幹とする複数年防除体系が可能となります。
- 9. 台風による潮風害の発生メカニズムとその予測法(平成16年)**

平成16年の潮風による農作物被害は、台風15号に伴う高波と強風によって砕けた波浪から塩分が飛散して発生しました。台風通過時~通過後、降水量が少なかったことが被害を助長しました。情報収集等により潮風害の危険性を早期に把握できます。
- 10. MBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生(平成18~19年)**

いもち病防除薬剤であるシタロン脱水酵素型メラニン合成阻害剤(MBI-D剤)耐性のいもち病菌の発生を県内全域で確認しました。
- 11. 庄内地域における「はえぬき」の籾数確保安定化技術の開発(平成18~19年)**

「はえぬき」の安定した品質・収量を得るために早期中干しの効果を明らかにし、地力別に籾数を安定的に確保する技術を開発しました。
- 12. 密封式鉄コーティング直播の特徴(平成19年)**

種子にコーティングした後の発熱がないため、発芽率の低下が少なく、また袋に密封したまま催芽して播種するため出芽が早く、効果的な除草ができることが確認されました。
- 13. 庄内地域の「はえぬき」における良食味特別栽培米の生産技術(平成19年)**

豚ふん堆肥と化成肥料の組み合わせ及び有機化成肥料を用いた特別栽培米において、収量、玄米タンパク質含有率(食味)、整粒歩合(品質)を考慮した生産技術を開発しました。

14. 「つや姫」の「栽培マニュアル」及び「栽培技術指針」の作成（平成20年～23年）

「つや姫」の良食味・高品質栽培に要する、施肥・移植期・栽植密度・生育パターン等の基本的栽培事項を記載した栽培マニュアルを作成しました（20・21年）。生育診断技術や過剰生育時の追肥技術等の詳細な技術を加えた「栽培技術指針」を作成しました（21年）。さらに、生産現場の実態に対応できるよう、栽培マニュアルを一部改正しました（23年）。

15. 水稲有機栽培における主要品種の生育指標の作成（平成24年）

水稲有機栽培における「つや姫」、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」の目標収量を県有機農業推進計画に基づいて480kg/10aとし、そのための収量構成要素や生育の推移を、基本指標および生育指標として示しました。

主な試験研究課題

1. 第Ⅴ期水稲主力品種の育成（平成25～29年）

消費者および生産者ニーズに対応する、①山間・中山間向けで耐病性・耐冷性が強く品質・食味が優れる早生～中生品種、②平坦地向けで、登熟期間が高温条件となっても玄米品質が低下しにくく食味が優れる中生の晩品種を育成します。

2. 第Ⅱ期地域特産型水稲品種の育成（平成22～26年）

地域稲作の活性化や消費拡大に向け、醸造特性及び加工適性に優れ、地域特産となる本県オリジナルの酒米、良質多収糯米、飼料用稲品種を育成します。

3. イネゲノム情報を用いたオリジナルDNAマーカーの開発と新育種体系の確立（平成24～28年）

イネゲノム情報を活用して、「つや姫」の良食味性および高温耐性を選抜できるDNAマーカーの開発を行います。

4. 「つや姫」のブランド向上技術の構築（平成23～25年）

「つや姫」のブランド力を高めるため、「おいしい」理由・条件について解明するとともに、地域、年次による食味の変動要因を解明し、品質・食味・収量を確保できる生育診断技術、対応技術を確立します。

5. 寒冷地における直播活用等による飼料用米低コスト多収生産技術の確立（平成22～26年）

飼料用米の有望品種として選定された品種を用い、直播栽培や単肥を利用し、低コスト・多収生産を現地において実証し、多収生産技術を確立します。

6. 温暖化に対応した水稲の安定生産技術の開発（平成25年～27年）

登熟期間の過度な高温や日照不足などにより、収量や品質が低下することを防止するため、高温に強いイネの条件を明らかにするとともに、登熟期間に高温が想定される場合の有効な対策技術を研究します。

7. 水稲用豚ふんペレットの製造と効率的省資源型施用技術の確立（平成21年～25年）

肥料的価値の高い畜ふんや未利用資源を有効に活用した資材を製造し、その効率的施用技術を確立します。

8. 水稲有機栽培における安定栽培技術の開発（平成25年～27年）

有機栽培導入の大きな阻害要因である雑草対策について、機械除草効果の安定化を図り、主要な有機栽培用肥料の肥効を研究します。

9. 大規模稲作経営における省力多収技術および経営体系の構築（平成25年～27年）

大規模稲作経営体の経営改善を図るため、新たな直播栽培技術の改良と体系の確立および競争力の高い稲作経営の体系を構築します。

10. ダイズシストセンチュウ等の防除対策事業（平成23～25年）

大豆の各品種のダイズシストセンチュウに対する抵抗性の強弱を明らかにするとともに、被害軽減技術の実証・評価を行い、総合的な防除対策を確立します。

土地

地目	水田	宅地	道水路等	計
面積	56,280m ²	14,096m ²	945m ²	71,321m ²

位置 北緯 38°46" 土壤型
 東経 139°54" 強グライ土壤粘土型
 標高 13m (西山統)

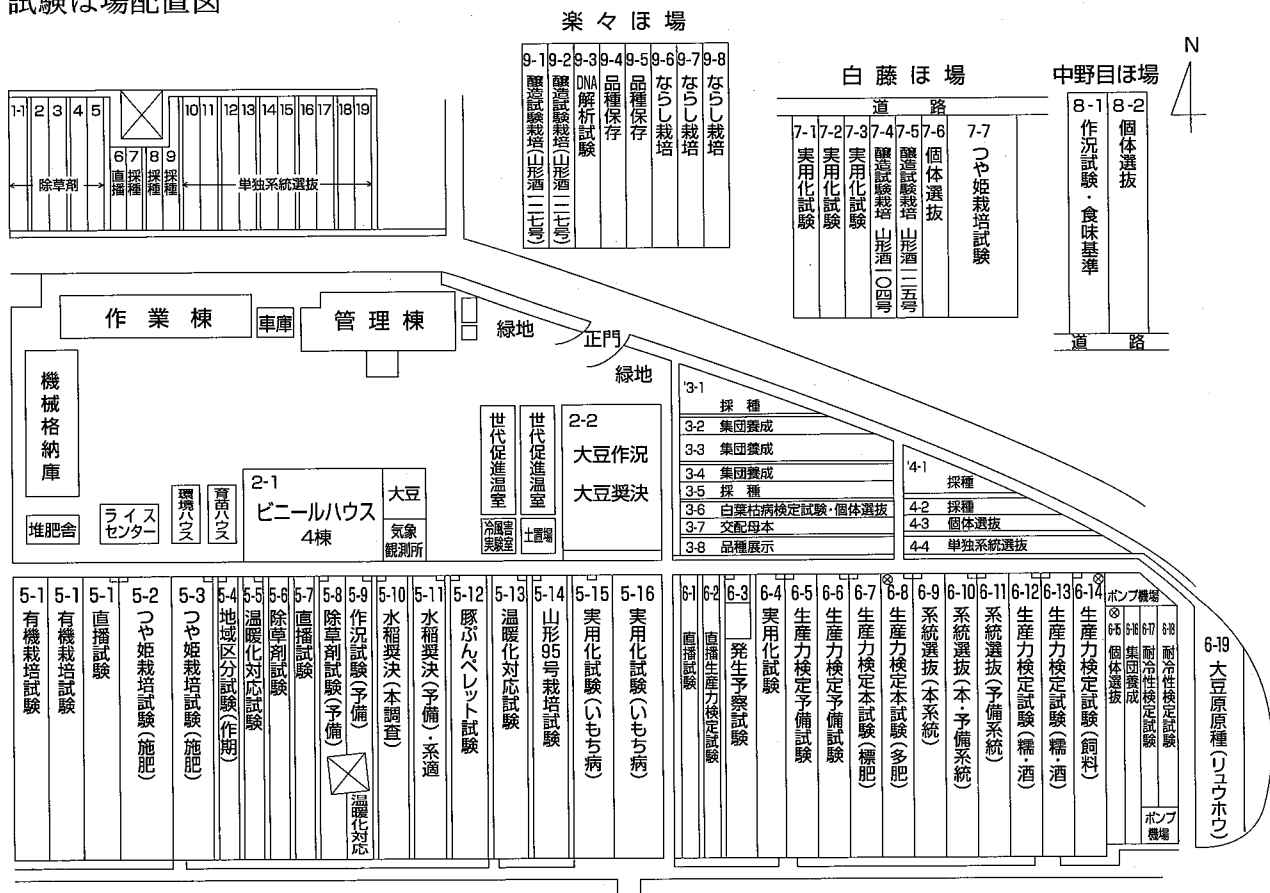
主な施設

- ① 本館(1,394m²)
- ② 車庫
- ③ 作物育種調査作業棟
- ④ 格納庫機械整備調査棟
- ⑤ 堆肥舎
- ⑥ 穀類乾燥調製作業棟
- ⑦ 昆虫飼育・ガラス・網室
- ⑧ 育苗ハウス
- ⑨ 気象観測装置
- ⑩ 世代促進温室(2棟)
- ⑪ 冷風害実験室
- ⑫ 送水ポンプ施設
- ⑬ 耐冷性検定施設

主な分析機器

- ① 食味関係
 - オートアナライザー
 - 食味成分分析計
 - ラピッドビスコアナライザー
 - 炊飯光沢計
- ② 作物・土壤関係
 - 窒素分解・自動蒸留装置
 - 施肥窒素分画測定装置
- ③ 病害虫関係
 - 接種恒温器

試験ほ場配置図



県立庄内農業高等学校

1 学校概要

(1) 沿革

明治34年に飽海郡松嶺町の元庄内蚕学校を仮校舎として山形県庄内農学校が設置され、翌35年9月、藤島の現在地に移転、今年で創立112年を迎えた。卒業生は1万6千名を数える。

(2) 方針

校訓「行学一如」並びに今年度の教育スローガン「地域とともに夢を叶える人づくり、学校づくり」のもと、「自立し、実践力のある心豊かな社会の発展に貢献できる人間を育てる」ことを目標としている。

(3) 学科内容・生徒数 1年：93、2年：85、3年：87、計265（男171、女94）

- ① 生物生産科 基幹作物の栽培などの学習、環境保全・低コスト生産、経営能力育成
- ② 園芸科学科 園芸作物の栽培などの学習、施設利用生産、農業・食の理解
- ③ 生物環境科 環境重視の生産と活用学習、安全な食品の学習、生物活用学習

(4) 近年の進路状況

進路 卒業	進 学					就 職						他	計
	四 大	短 大	大 学 校	専 修	小 計	県内		県外		自 営	小 計		
						民 間	公 務	民 間	公 務				
23.3	11	1	6	20	38	52	0	18	0	0	70	0	108
24.3	2	0	3	18	23	66	0	10	0	0	76	0	99
25.3	9	5	11	18	43	54	0	4	4	1	63	1	107

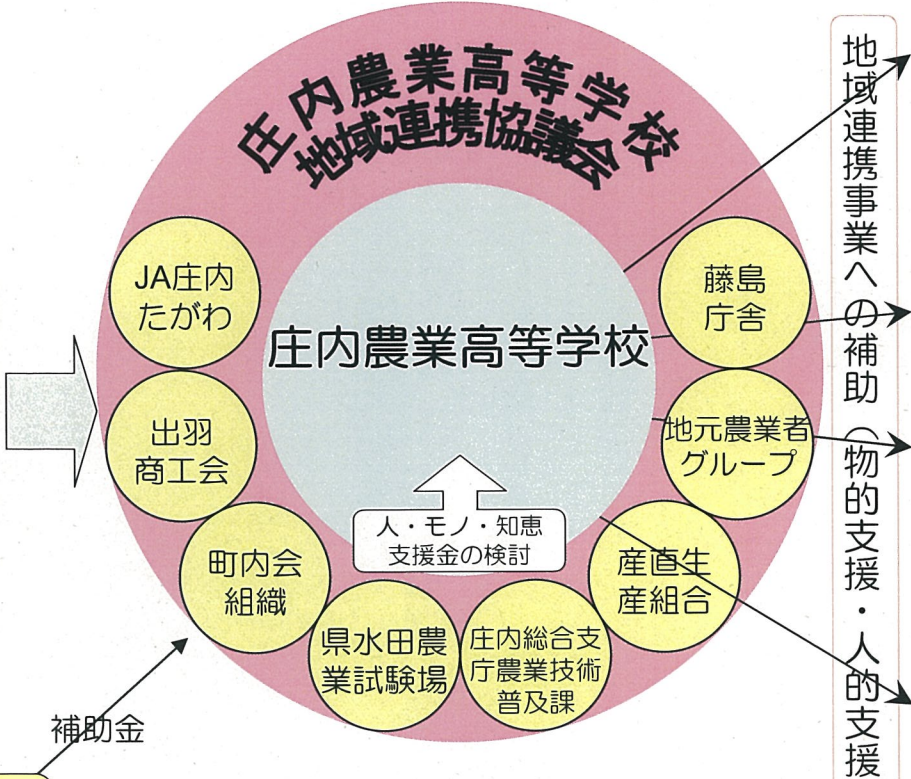
2 地域と関わりのある活動・プロジェクトの概要

- ① 産業担い手育成プロジェクト事業（21・22：文科省・農水省、23～25：山形県） 希望者・生徒の中長期インターンシップ＝夏休休業中に地域の農家・農園、農業生産法人等で10日前後実習・教員の技術研修＝庄内総合支庁産業経済部庄内農業技術普及課産地研究室（酒田市浜中） 24
※ インターンシップ 2学年全員対象で6月末に実施（3日間 地域の約60の事業所）
- ② 料理人による地域特産物の生産・加工・流通・販売をとおした地域の活性化につなげる事業（21・22）
・地元著名シェフによる講演、料理講習会
- ③ 特色ある学校づくり事業（22～24 山形県）
・エコパーク化の取り組み・・・藤島川堤防沿い敷地の緑化の取り組み、県大会で発表
- ④ 活力あふれる学校づくり事業（25～28 山形県）
・良食味米生産と商品開発を目指す6次産業化の実践
- ⑤ 庄内総合支庁との連携（H22～24） 飛び出せ高校生事業
・鷲畑地区圃場整備事業に伴うホトケドジョウの保全保護活動の取り組み・・・県大会で発表
- ⑥ 地域との交流
・明るい町づくり藤島大会への参加（映画演劇部の防犯公演、意見発表）
・藤島ふじの里まつり、秋まつりへの出店、ふじしま音楽祭への参加
- ⑦ 施設等との交流 根っこ杉、地域の老人福祉施設
- ⑧ 学校との連携
・こりす保育園：野菜の栽培補助
・藤島小学校：野菜栽培学習補助（1年・3年生 里芋・ネギの栽培）、ミニ出前公演（映画演劇部）
・藤島中学校：文化祭前の演劇指導（映画演劇部）、体験学習の受入

庄内農業高等学校地域連携事業のイメージ

**藤島地域
振興ビジョン
(H20年3月策定)**

藤島に集積する農業関連施設やエコタウンの取り組みなど農業の先駆的な地域としての特性を生かし、農業関連資源を活用した地域振興・発展を目指す



補助金

藤島庁舎

庄内農業高等学校地域連携協議会を立ち上げ、地域ぐるみで庄農を応援する

地域連携事業への補助
(物的支援・人的支援)

- 例
- 米粉加工品の商品化 (H24年度は米粉シフォンケーキ)
 - 地域緑化の取り組み
 - 加茂水産、鶴岡中央、庄内農業の3校コラボの取り組み
 - 更なる地域連携事業の検討と実践

高校生
パワー

藤島地域の活性化

庄農生・高校生活の充実
農業の6次産業化へのきっかけづくり
食文化都市への貢献
地域農産物の活性化